

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2170200535		
法人名	(有)アイシン		
事業所名	グループホーム だいこんの花		
所在地	岐阜県関市西神野605番地2		
自己評価作成日	平成29年10月19日	評価結果市町村受理日	平成30年1月9日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.nhi.w.go.jp/21/i/index.php?act=on_kouhyou_detail_2017_022_kami%20rue&ji_gvovsyoCd=2170200535-00&PefCd=21&Ver:si_onCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 旅人とたいようの会		
所在地	岐阜県大垣市伝馬町110番地		
訪問調査日	平成29年10月19日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「流しソープ」「感謝祭」等地域の方々と交流ができホームが孤立してなく婦人部の方々の協力で喫茶も開かれ憩いの場となっている。隣接の「交流センター」には「カラオケ教室」が月1回開かれ地域の方と一緒に楽しむ機会があると共に年1回の「歌謡ショー」があり地域の方、職員に支えられて舞台上に立たれる。本人 家族 ホームが良い関係に保って行ける様務めている。「明るく家庭的な雰囲気の中でその人らしさを大切にしましょう」との理念を念頭に言葉使いに気を付け笑顔・尊敬する気持ちを忘れないよう努めている。〈本人本意〉の支援を心掛けている。それは、何を希望され、何に困ってみえるか、〈いま〉〈ここで〉どのような気持ちでみえるのかなど、声なき声を聴き、対応していくこと、認知症の人の心の世界を理解しようと努め〈安心〉していただくこと、〈本人らしさ〉=本人固有の生き方を大切にすることである。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

管理者は職員が外部研修会に参加できるように勤務を調整したり、一部費用を負担したりしている。家の都合などでも出来る限り勤務を調整し職員が働きがいを持ってのように支援している。ミーティング前に職員からの意見を書面で集約して反映できるように工夫している。併設する交流センターを地域に開放し喫茶店やカラオケ教室など利用者と交流できる場となっている。交流センターで顔なじみになった方が、野菜の収穫や草花の世話を一緒に行っている。職員は花壇の世話や洗濯、買い物など家庭の延長として考え利用者が出来ることを一緒に行っている。カラオケの好きな車椅子の方が年1回開催されるカラオケ教室の歌謡ショーに出演できるように支援したり、期日前投票に出掛けたり利用者の思いが叶えられるように取り組んでいる事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	共有している部分は少ないが協力して頂いている。	管理者は家庭の延長で利用者が楽しく過ごせるように支援することを説明している。野菜作りや花壇の世話、洗濯、買い物など昔から行ってきたことを手伝ってもらい笑顔で過ごせるように取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	年間行事の中で、流しソーメンとふれあい祭は地域の方を招待している。又この日に運営推進会議にも出席依頼し、多くの方が参加された。又地域の文化祭や、学校行事にも参加している。	併設の交流センターを地域に開放し喫茶店やカラオケ教室など利用者と交流できる場となっている。幼稚園児やボランティアが訪問したり、事業所主催の感謝祭に地域の方や家族が参加したりして交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	交流をする中で、認知症への理解を得られるようにしている。中学校の生徒による高齢者との交流を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では近況、今後の予定を報告している。市役所担当者や家族の方からの意見等を職員に伝え業務に反映できる様にしている。	会議には地域の代表者や駐在所の警察官など参加している。事業所の状況や活動を報告している。市の担当者より熱中症・食中毒対策や転倒予防について話があり職員間で話し合っ取り組んだ。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	隔月の運営推進会議には市の担当職員が参加している。	市の担当者に事故報告書を提出したり分からないことを電話で相談したりしている。市主催の研修会に職員が参加し意見交換している。生活保護の利用者を受け入れ担当者と連携している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	夜間は玄関の施錠はしているが日中は施錠はせず、いつでも出入りできる様になっている。又散歩を希望される方は職員が同行している。また、言葉による拘束については、行っていない。	管理者は職員に事業所の方針として拘束しないことを説明している。職員から拘束について疑問や質問があった時は理解できるように説明している。ミーティング時に、事例から対応などを話し合うことで拘束について理解できるように取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ミーティング等で職員に伝え、事業所内で虐待が発生しないように普段から務めている。		

グループホーム だいこんの花

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者、職員研修を予定している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前に家族と話し合い契約時に書面にて説明し理解している頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置しているが利用された事はない。運営推進会議で聞いた要望はその都度職員に伝えている。面会時に気軽に話をされる家族もみえる。	家族が面会など来所した時に近況を伝えて意見や要望を聞いている。請求書を送る時に行事の写真や職員が書いた手紙を同封し電話で要望などを聞くこともある。利用者の希望で年1回の歌謡ショーに参加している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のミーティングまたそれ以外でも職員の意見は聞き、相談している。朝、夕の申し送りや前日からの繋がりを書面にて伝達している。	管理者はミーティングの前に職員の意見を書面にて提出させて話し合っている。物品の購入や希望の休みなど意見を反映している。外部研修会に参加できるように勤務調整したり費用の一部を負担したりしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	外部研修は出勤扱いで研修費用も会社負担で行っている。残業は15分からつけ、家庭の事情など考慮し希望休など融通を利かしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	全職員が内外研修に参加できる様に配慮している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市の開催する地域密着型の交流会に参加している。(ケアマネのみ)		

グループホーム だいこんの花

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の生活歴など含め心身の状態、希望を家族・本人から聞き取りホームでの生活を安心して送れるように務めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人の生活歴など含め心身の状態、希望を家族・本人から聞き取りホームでの生活を安心して送れるように務めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	今までの生活とのギャップが無い様に暮らして頂けるよう配慮している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共に生活をする中で入居者は人生の先輩である事を意識して尊厳を守り「介護している」のではなく「介護させて頂く」の気持ちで接している。また掃除、調理にも参加して頂いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時、電話等で本人の状況を伝え本人の状況を面会時にはゆっくり過ごして頂いている。家族との外出時は話を聞き本人の様子を確認している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族以外の親戚、友人の面会があるのは限られた入居者である。	近所の顔なじみの方や友人などが来所されたときは職員から再来所をお願いしている。利用者の思いを家族に伝えて一緒に帰宅したり、馴染みの美容室に出掛けたりする方もある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士で仲良く談話する姿はよくある。		

グループホーム だいこんの花

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	体調の悪化により入院し、戻れ無い方は退院後の相談を受けている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	意思表示ができる方の希望、要望は本人もしくは家族から聞き、困難な方でも声かけをし、表情を伺いながら検討している。	職員は日々の関わりの中で声掛けや接し方に気を付けて思いや意向を聞いている。困難な方は家族に生活歴を聞いて、表情やしぐさから把握している。気付いたことを連絡帳に記入して職員間で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居者以前に担当のCMさんより情報を頂き面接で本人、家族に生活歴などを聞き情報シートで職員と共有しコミュニケーションにいかしている。入居後も家族との談話の中から情報を得る事もある		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	記録や申し送り、また本人の状態に合わせて入浴、休息、活動をすすめている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日常的に出てきた課題をミーティング時に話し合い面会時に家族に話している。ケアプランはCMが作成しているが全職員と共有はされていない。	職員は家族に近況を報告し計画に対する意向を聞いている。担当職員が定期的にモニタリングを行っている。連絡ノートなど日常の記録を参考にしてミーティングで話し合い職員の意見などを反映している。状態が変化した時は現状に即して計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録や連絡ノートなどを活用し情報の共有をしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	以前の住居を訪ねたり本人、家族の要望に添うように務めている。		

グループホーム だいこんの花

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ホーム内の行事には、ボランティア団体の方に慰問して頂き交流をはかっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居後もかかりつけ医の診察を希望される方は継続していたが訪問診療している協力医に変更する方もある。認知症状が重い方には専門医の訪問診療をお願いしている。	従来のかかりつけ医に家族が付き添い受診している。家族が付き添う場合は体調などを書面で渡している。職員は家族に受診結果を聞いている。必要に応じて職員が同行することもある。入居後、家族の希望で協力医に変更する方もいる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	小さな変化・気づきでも記録や口頭で伝え、受診の判断をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時から退院まで医療機関の相談員と連携を図っている。カンファレンスなどにも積極的に参加して退院後に繋げている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時の説明では看取りは行っていないと伝えてあるが重度化してきた際にはどの様に対応していくかそして家族の希望もどこまで取り入れるか訪問診療の主治医との連携も強化している。	契約時に家族に事業所の方針を説明して理解を得ている。家族の意向を確認しながら事業所が出来る範囲の支援を行っている。状態の変化に応じて家族と話し合いながら医療機関へ繋げている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急車要請の手順はマニュアルがある。怪我の場合は、管理者と連携し緊急時の連絡方法も徹底し連絡しやすくしてある。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回昼間想定・夜間想定等非難訓練を行っている。直近では心肺蘇生・AEDを含む訓練を行った。近隣の方には口頭にて火災時等の協力依頼をしてある。	災害に備えて計画的に訓練を行ったり、近隣の住民に協力を依頼したりしている。記録では、訓練を1回しか確認できず夜間を想定した訓練は確認できなかった。管理者は備蓄品は必要であると思っているが準備していない。	災害に備えて夜間を想定した訓練や備蓄品など、運営推進会議や関係者に相談しながら計画的に取り組むことを期待する。

グループホーム だいこんの花

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員は人生の先輩である入居者様を敬って支援すると理解しているが、感情が入ってしまったり、慣れすぎて言葉使いが悪くなることもある。	尊敬する気持ちを忘れないで笑顔で接することを心掛けている。トイレへの誘導時は、耳元でそっと声を掛けるようにしている。管理者は言葉使いによっては利用者に悪い印象を与えると説明して言葉使いに気を付けるように説明している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	どんな時でも声かけに重きをおき入居者の意見を聞き援助にあたる様になら無理強い無い様に務めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースに合わせてゆっくりとした日があれば1日が早く過ぎる日もありません。1日の流れは大体決まっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	時々マニキュア・お化粧をしたりして女性らしさを大事にしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立を作成する時季節を忘れないようにし、要望も聞いている。誕生日・行事ではめでたいとわかるように工夫している。また調理・洗濯のたたみにも参加している。	利用者は野菜の下調理や料理の味見、後片付けなど出来ることを手伝っている。栗きんとんやおはぎなど季節を感じられるおやつを手作りしている。利用者と職員が食卓を囲み、軽音楽を流して、会話しながら楽しく食事している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	定期的な水分補給のほか、気候や健康状態等個人に合わせている。主治医の指示で高カロリー食を補助している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケア介助、1日1回の義歯消毒、歯科衛生士による口腔ケアを1週間に1回行っている。すすぎが困難な方には口腔ケア用品を使用している。		

グループホーム だいこんの花

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表をつけ、定期的にトイレ利用介助をおこなっている。	排泄チェック表を参考にパターンを把握してトイレに誘導している。職員間で話し合うことで情報を共有し出来る限りトイレでの排泄が出来るように取り組んでいる。ポータブルトイレは使用せずに誘導する時間を見直すことで改善された方もある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘が認知症の方を不穏にさせる事を理解し、自然排便を促す様に飲み物などで工夫している。また便秘が3日続いたら主治医と相談し、座薬などを使用している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	2日おき午前中の中の入浴を行っている。本人が希望しない時は強要せず進めている。入浴中は出来る事はやって頂く様にしている。	入浴する日を決めているが希望すれば入浴することができる。嫌がられる方には日を変更している。職員は、会話したり、歌ったりしながらゆっくりと入浴できるように心掛けている。入浴剤やゆず湯、菖蒲湯など楽しめるように工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は昼食後の昼寝など、適度な休息を促している。夕方以降は夜間の安眠に繋げる様に興奮しないよう心掛けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人記録に薬剤情報を載せている。変更があった時にはその都度申し送り、連絡帳で伝えている。調整中の薬の場合はその時の様子を主治医に連絡している。		
48	kkkkk	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	体操、掃除、炊事、などの参加を日課にし、役割を持つことで張り合いのある暮らし作りを支援している。カラオケ教室など個人での楽しみ事も行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩を希望される方には、可能な限り職員が同行している。また毎月レクリエーションを計画し実行している。	花壇の水やりや野菜の収穫、買い物、外食に出掛けている。急に外出を希望される人には一緒に散歩やドライブに出掛けている。歩行が難しい方で希望すれば期日前投票に出掛けたり、家族の協力を得て法事に出席したり、行きたいという思いを大切に支援している。	

グループホーム だいこんの花

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族に責任はとれない旨を了承して頂き本人が少額を持っている方もある。欲しいものがあれば家族に連絡し立替で購入している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をかけたり、かかってきたりして家族との連携をとっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングに外出先での食事時の写真を飾っている。共同スペースは平等にしている。が対応が難しい時もある。TVの音、職員の声が騒音にならないよう気をつけている。	リビングに紅葉や赤とんぼが書かれた手作りカレンダーを飾ったり、花瓶にコスモスやススキなどを活けたりして季節感を醸し出している。行事や外出時の写真が掲示されて会話の話題となっている。リビングに面したテラスに藤棚があり居心地の良い空間であった。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自分の席お決めて座られる方もあり、その都度説明をさせてもらい気持ちよく座る事ができる様にしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時には、使い慣れた物があれば十分ですと説明させているがタンスなどは購入される方が多い。	契約時に、家庭の延長であるため思い出の物や馴染み物を持ち込んで欲しいと説明している。布団や仏壇、テレビ、ぬいぐるみなど持ち込んでいる。事業所より家族に衣替えなど依頼して、家族が利用者と関わりながら居心地良く過ごせるように支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室入口に表札を貼り、自分の部屋と分かる様にしている。		